

Topic

ヤマザクラのススメ

鈴木 三 男

金沢大学に赴任して10年が過ぎましたが、4月赴任早々、石川門や大手堀を始め、学内の桜並木のあでやかさに感動し、なんと美しい大学に来たものかと思ったものです。この桜はみなさん良く御存知のソメイヨシノと言う種類で、現在、全国の多くの桜の名所はこのサクラですが、昔はそうではありませんでした。と、言いますのはこのソメイヨシノは明治の初期に東京の染井町（今の豊島区）の植木屋が売りに出し、それが爆発的に広まったものです。日本には野生していないサクラで、正体がいろいろ推察されてきたのですが、最近になってようやく、それがオオシマザクラとエドヒガンザクラの雑種であることが確かめられました。

オオシマザクラは伊豆地方に特有の野生のサクラで、葉が緑色で大きく、桜餅に使われます。花は殆ど白色で大きめで、葉が展開するのと同時に咲きます。もう一方の親のエドヒガンザクラはシダレザクラの枝が垂れない品種で、花期はオオシマザクラより早く（彼岸の名の由来です）、花はやや小さめで、桜色をしていて、葉の展開に先立ってびっしりと咲きます。いずれも江戸では鑑賞用に良く植えられていたようで、それを供給する植木屋の庭先で自然にか、あるいは人為的に交配して出来たのがソメイヨシノな訳です。

ソメイヨシノは、エドヒガンからは良い花付きと葉に先立って桜色の花を咲かせる性質を、オオシマザクラからは大きな花と緑色の葉を受け継ぎ、雑種ですので種子は出来ず、野生種の台木に接ぎ木することによって増やしています。接ぎ木ですので成長は早く、若木でも開花します。そして花期は両親の中間



ヤマザクラ(北隆館『牧野新日本植物図鑑』より改変)

で江戸近辺ではちょうど3月末から4月初頭と、日本の年度代わりのちょうどその時期であること、などからたいへんもてはやされたものと思われます。しかしこの桜も欠点があります。成長が早いことの当然の帰結として寿命が短く、50年もたつと幹は腐りが入り枝は各所で枯れて、老木の風格というよりもみすばらしさが先に立つのが正直なところでしよう。ですから老木による桜の名所というものはありません。さらに、花の後半、花びらがいさぎよく散って行くのは他の桜と同様ですが、いわゆる葉桜になるとき、鮮やかな緑色の新葉の中に散り残りの濃い桜色の花びらと赤いガクが目立ち、決して美しいとは言えません、誰も見向きもしません。そして花びらの散ったあとの花がばらばらと落ち、汚らしいとさえ感じるものです。このように文明開化の波に乗って広まったソメイヨシノですが、古来、親しまれ、歌に読まれてきた桜とは違ったものであることにもうお気づきでしょう。

日本には多くの桜の種類があり、それらは花木として古くから親しまれてきているのですが、ソメイヨシノ以前で、単に「桜」といえば、それはヤマザクラのことでした。ヤマザクラは宮城、新潟両県以南から九州屋久島、対馬、済州島に普通に分布する落葉広葉樹で、吉野の桜はもちろんこれです。ソメイヨシノとほぼ同時かあるいはほんの1、2日遅れて開花しますが、開花に先だって葉が開き始めます。花(鼻)より葉(歯)が先に出る、と言うのでそのような人を「ヤマザクラ」と呼んだりしたものです。花は色、大きさにいろいろ変異があり、それこそ一株一株違うほどですが、一般に淡い桜色から桜色で、ソメイヨシノの花よりやや小さいものから一回り大きいものまであります。花後、黒紫の小さなサクラノボをびっしりつけます。

鑑賞する上でソメイヨシノとの違いは、新

葉が美しい紅～茶色で花と一体となって極めて美しいこと、花後実がなって小鳥が集まること、樹皮がいわゆる桜皮で美しく、皮目が面白いこと、そして寿命が長く、大木になること、などがあり、たいへん花木として優れています。手軽で派手ですぐに花が咲くという点ではソメイヨシノに分がありますが、艶やかでしかも落ちついた美しさという点ではヤマザクラの方がはるかに優れているといえましょう。

聞くとところによるとOBの寄付金で角間キャンパスに桜並木を作る計画があるとのこと。周囲が美しい森に囲まれたこのキャンパスにこそ、けばけばしいソメイヨシノでなく、ぜひ、しっとりとしたヤマザクラの並木を推薦したいと思います。

(金沢大学教養部助教授；生物学)

Information Processing

30円で買える学術情報

橋 洋 平

朝日新聞の連載マンガの中に次頁のようなものがあつた。私はこれを見て、情報社会の特徴について鋭いところを突いているな、と感じた。

このマンガから言えることは、

- 情報を持っていると商売になる。
- 情報を得るにはお金が必要である。
- しかし、30円でも役に立つ情報は得られる。
- そういうことは常識になっていて、子供でも知っている。

ということである。こういう世の中を「せちがらい」と感じるか「時代の趨勢」と感じるか、人によってとらえかたは違うが、研究者の求める学術情報を提供するのが仕事である

大学図書館の情報サービスについてもこのマンガの状況がそのままあてはまるようになった。

FAXもオンライン端末もなかった従来の大学図書館で得られた学術情報は、自分の図書館内に蓄えられている情報がほとんどだった。カード目録で分類番号を探し、書架で本を探すだけだった。探せる情報量は少なかったがその分タダだった。

図書館の閲覧課という組織名が情報サービス課という名称に変わった現在、学術情報提供の方法も大きく変化した。学内の図書はもとより全国の大学図書館で所蔵している図書や雑誌をオンラインで検索することができる